

中華人民共和国

主要データ

国名〔英名〕	中華人民共和国〔People's Republic of China〕
面積(km ²)	9,596,961
海岸線延長(km)	14,500
人口(百万人)	1,336.7
人口密度(人/km ²)	139.3
GDP(百万US\$)	5,878,260
一人当りGDP(US\$)	4,382
主要鉱産物：鉱石	銅、鉛、亜鉛、タングステン、錫、モリブデン、アンチモン、マグネシウム、希土類
主要鉱産物：地金	銅、鉛、亜鉛、アルミニウム、錫、アンチモン、マグネシウム
鉱業管轄官庁	国土資源部、工業情報化部、国家発展改革委員会
鉱業関連政府機関	中国有色金属工業協会
鉱業法	鉱業資源法
ロイヤルティ	なし
外資法	外商投資産業指導目録
環境規制法（環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等）	環境保護法
鉱業公社・民間企業	(国有中央企業) 中国アルミ業(Chinalco)、中国五鉱集団(Minmetals)、中国冶金科工集団(MCC)など
近年の鉱業関連問題（資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ レアアースなど資源の乱掘・不法採掘防止による資源保護、環境汚染対策の観点から年間採掘総量を国土資源部が管理 ・ 資源輸出抑制策として、輸出増値税還付率の調整、輸出税、輸出量割当制度 ・ 資源の安定確保を目指し、海外進出 ・ 産業構造調整のため、専業鉱種を超えた企業再編
2010年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ レアアース輸出枠の大幅削減 ・ 尖閣問題に端を発した税関によるレアアース一時輸出停止

1. 鉱業一般概況

中国には多くの鉱物資源が賦存しており、特に亜鉛、アンチモン、ビスマス、カドミウム、モリブデン、希土類、錫、タングステン、バナジウム、イットリウム、イルメナイト、ストロンチウムの埋蔵については世界第1位、鉛が第2位、マグネシウムが第3位、リチウムが第4位またその他鉱物資源の賦存ランキング・占有率についても高い位置を占める等世界でも有数の資源保有国である。

一方、生産量についても銅地金、アルミニウム地金、アンチモン鉱、金鉱、鉛鉱、鉛地金、錫鉱、錫地金、亜鉛鉱、亜鉛地金、マグネシウム地金、モリブデン鉱、マンガン鉱、タングステン鉱、カドミウム地金、スポンジチタン、ニッケル地金、バナジウム、ビスマス鉱、コバルト地金、水銀、希土類が世界第1位、ボーキサイトが第2位、銀鉱が第3位等世界における非鉄金属の主要生産国であり、特に希土類、タングステン、アンチモン、マグネシウムについては世界供給の8割以上を占める寡占的供給国である。特に内蒙古自治区のBayan Obo 鉱山は世界最大の希土類埋蔵量を有する。

中国の資源政策は、レアアースだけの問題にとどまらず、その他のレアメタルやベースメタルなどの金属資源へも大きな影響を与えることから資源分野では世界中の企業がその動向を注目している。特に、供給サイドでは中国が生産を独占するタングステンやアンチモンなどレアメタルの生産、輸出動向が、需要サイドではほとんどの金属資源で中国が世界一の消費国となっていることからその消費動向が、それぞれの市況に大きな影響力を有する。

(中国企業の財務状況)

中国有色金属工業協会加入企業 69 社 (内訳: 銅・ニッケル 20 社、アルミ 20 社、鉛・亜鉛 15 社、タングステン他 14 社) の主要業務収入は 9,163.06 億元 (対前年比 41.84%増)、主要業務コストは 8,184.50 億元 (対前年比 39.67%増) で、損失控除後の利益は 344.80 億元 (対前年比 98.41%増) であった。69 社中、赤字企業は前年より 5 社減って 11 社、その損失額は 14.66 億元 (対前年比 78.85%減) であった。赤字企業のうち、6 社はアルミ企業でその損失額は 7.03 億元 (対前年比 87.25%減)、3 社は鉛・亜鉛企業でその損失額は 7.48 億元 (対前年比 65.03%増)、残り 2 社は銅・ニッケル企業であった。

(鉱業投資の状況)

固定資産投資 (実績ベース) は 3,627.95 億元 (対前年比 33.53%増) であった。そのうち鉱山プロジェクトへは 760.50 億元 (対前年比 34.16%増) で、鉛・亜鉛 199.75 億元 (対前年比 31.02%増)、銅 138.12 億元 (対前年比 17.76%増)、アルミ 49.34 億元 (対前年比 34.04%増)。精練プロジェクトへは 1,560.59 億元 (対前年比 24.01%増) で、電解アルミ及びアルミナ 460.04 億元 (対前年比 24.68%増)、銅 228.22 億元 (対前年比 20.03%増)、鉛・亜鉛 233.39 億元 (対前年比 34.86%増)。加工プロジェクト 1,306.86 億元 (対前年比 46.59%増) であった。

2. 鉱業政策の主な動き

- ・ 国務院「旧式生産設備淘汰の一層の強化に関する通達」 (2010年4月6日)
- ・ 工業情報部「レアアース産業への参入許可条件に関する意見募集」(2010年5月13日)。初めての生産規模による産業参入条件の設置
- ・ レアアース輸出枠大幅削減 (対前年度 39,66%減) (2010年7月7日)
- ・ 国務院「企業の統合・再編の推進に関する意見」を公表、電解アルミ及びレアアース産業の統合・再編が国家戦略となる (2010年8月)
- ・ 2011年輸出暫定税率表改訂 (2010年12月2日) ネオジウム(15%→25%)、ランタン、セリウム、塩化ランタン (以上新規 25%)、フッ化ジスプロシウム、フッ化ランタン、他のフッ化希土 (以上新規 15%)

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比(%)
銅 (千t)	930.8	961.4	1,155.9	20.23
鉛 (千t)	1,145.4	1,360.3	1,851.5	36.10
亜鉛 (千t)	3,153.0	3,091.5	3,699.6	19.67
ニッケル (千t)	71.5	81.1	79.6	-1.92
錫 (千t)	65.1	72.4	83.6	15.41
アンチモン (千t)	94.4	95.9	114.8	19.59
鉄鉱石(万t)	82,401.1	88,017.1	107,155.5	21.74

(出典: 中国有色金属工業協会、国家統計局)

(2) 主要金属地金生産量

10 鉱種の非鉄金属生産総量は、対前年比 20.42%増の 3,134.98 万 t であった。内訳は、銅 457.35 万 t (対前年比 11.29%増)、電気アルミ 1,619.45 万 t (対前年比 26.07%増)、鉛 419.94 万 t (対前年比 13.25%増)、亜鉛 516.42 万 t (対前年比 18.54%増)、ニッケル 17.13 万 t (対前年比 3.97%増)、錫 14.94 万 t (対前年比 11.13%増)、アンチモン 18.74 万 t (対前年比 13.08%増)、マグネシウム 65.38 万 t (対前年比 30.55%増)、スポンジチタン 5.47 万 t (対前年比 19.53%増)である。他に水銀が含まれ生産量は 1.59 千 t (対前年比 11.29%増)であった。

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減比(%)
銅 (千 t)	3,779.3	4,109.5	4,573.5	11.29
アルミ (千 t)	13,176.6	12,845.9	16,194.5	26.07
鉛 (千 t)	3,206.4	3,707.9	4,199.4	13.25
亜鉛 (千 t)	3,913.1	4,356.6	5,164.2	18.54
ニッケル (千 t)	128.7	164.7	171.3	3.97
錫 (千 t)	129.0	134.4	149.4	11.13
アンチモン (千 t)	183.6	165.7	187.4	13.08
マグネシウム (千 t)	630.7	500.8	653.8	30.55
チタン (千 t)	44.3	61.5	54.7	-11.06
粗鋼(万 t)	50,048.8	56,784.2	62,665.4	10.36

(出典：中国有色金属工業協会、国家統計局)

(3) 主要金属地金消費量

表 3-3. 金属地金消費量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減比(%)
銅 (千 t)	5,148.9	7,144.1	7,418.6	3.84
アルミ (千 t)	12,412.5	14,275.7	12,412.5	-13.05
鉛 (千 t)	3,456.3	3,859.9	4,212.7	9.14
亜鉛 (千 t)	4,145.2	4,888.3	5,305.6	8.54
ニッケル (千 t)	305.2	541.3	561.5	3.73
錫 (千 t)	145.0	143.0	152.8	6.85

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2011)

(4) 主要金属輸出货量

地金輸入量は、銅 292.21 万 t(対前年比 8.26%減)、鉛 2.15 万 t (対前年比 86.33%減)、亜鉛 32.34 万 t (対前年比 51.70%減)、アルミ 22.99 万 t (対前年比 81.63%減)であった。一方輸出货量は、銅 3.87 万 t(対前年比 46.91%減)、鉛 2.31 万 t (対前年比 0.13%増)、亜鉛 4.31 万 t (対前年比 47.10%増)、アルミ 19.35 万 t (対前年比 321.57%増)であった。輸出入総額は、史上最高の 1,203.42 億元 (対前年比 43.72%増)で、そのうち輸入額は 920.83 億元 (対前年比 38.52%増)、輸出額は 282.59 億元 (対前年比 63.72%増)であった。

表 3-4. 金属地金輸出货量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年 増減比 (%)	主な輸出相手国
銅 (千 t)	96.1	72.9	38.7	-46.90	台湾、韓国、香港
アルミ (千 t)	110.1	45.9	193.5	321.62	香港、韓国、ケニア
鉛 (千 t)	33.6	23.0	23.1	0.18	タイ、台湾、韓国
亜鉛 (千 t)	71.3	29.2	43.1	47.39	韓国、マレーシア、ケニア
ニッケル(千 t)	6.6	33.5	53.2	58.70	韓国、香港、台湾
錫 (千 t)	0.5	0.6	0.7	4.15	シンガポール、日本、北朝鮮
銻鉄(万 t)	25.0	24.0	71.0	195.83	日本、韓国、ベトナム

(出典：中国有色金属工業協会、税関総署)

(5) 主要金属輸入量

表 3-5. 精鉱中含量・地金輸入量

鉱種 (千 t)	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増 減比 (%)	主な輸入相手国
銅精鉱	5,192.1	6,132.3	6,468.1	5.54	モンゴル、トルコ、カザフスタン
銅地金	1,456.4	3,185.2	2,922.1	-8.37	チリ、日本、カザフスタン
アルミ精鉱	25,790.4	19,691.9	30,069.6	53.10	インドネシア、インド、マレーシア
酸化アルミ	4,586.0	5,140.7	4,312.2	-16.12	豪州、インドネシア、ジャマイカ
アルミ地金	121.6	1,496.1	229.6	-84.64	ロシア、豪州、インド
鉛精鉱	1,445.0	1,604.8	1,603.8	-0.10	ペルー、米国、豪州
鉛地金	30.9	157.3	21.5	-86.31	韓国、豪州、日本
亜鉛精鉱	2,384.9	3,850.9	3,240.5	-15.44	豪州、ペルー、カナダ
亜鉛地金	183.4	669.5	323.4	-51.71	豪州、ナミビア、カザフスタン
ニッケル精鉱	12,318.0	16,420.9	25,007.4	52.20	フィリピン、インドネシア、ロシア
ニッケル地金	116.9	243.0	181.5	-25.30	ロシア、豪州、カンダ
鉄鉱石(万 t)	44,356.0	62,778.0	61,863.0	-1.46	豪州、ブラジル、インド

(出典：中国有色金属工業協会、税関総署)

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1、4-2 に主な鉱山・製錬所を示す。鉱山、製錬所毎の生産量、品位等のデータは公表されていない。

表 4-1 中国の主な銅・鉛亜鉛鉱山

鉱山名	所有企業名	鉱種
安慶銅鉱	銅陵有色金属集团公司	銅
冬瓜山銅鉱	銅陵有色金属集团公司	銅
德興銅鉱	江西銅業集团公司	銅
永平銅鉱	江西銅業集团公司	銅
城門山銅鉱	江西銅業集团公司	銅
大紅山銅鉱	雲南銅業股份有限公司	銅
銅録山銅鉱	大冶有色金属公司	銅
銅鉱峪銅鉱	山西中条山有色金属公司	銅
新疆阿捨勒銅鉱	新疆阿捨勒銅業股份有限公司	銅
獲各琦銅鉱	北京西蒙銅産勘査有限責任公司	銅
玉龍銅鉱	西部銅業股份有限公司	銅
紅透山銅鉱	中国有色集团	銅
青海瑪沁德銅鉱	紫金銅業集团股份有限公司	銅
内蒙古烏努格山銅鉱	中国黄金集团中金地質有限公司	銅
雲南迪慶羊拉銅鉱	雲南迪慶銅業開發有限責任公司	銅
紫金山金銅鉱	紫金銅業集团股份有限公司	銅
黑竜江多宝山銅鉱	紫金銅業集团股份有限公司	銅
雲南普朗銅鉱	雲南銅業集团公司	銅
甲瑪銅多金属鉱	西藏華泰龍銅業開發有限公司	銅
拜仁達堰銀多金属鉱	内蒙古銀都銅業有限責任公司	鉛・亜鉛
東升廟銅業有限責任公司	甘肅建新公司	鉛・亜鉛
内蒙古東升廟銅業有限責任公司	由巴彥淖爾華澳銅業化工集团有限公司、河南豫光金鉛集团有限公司ほか	鉛・亜鉛
巴彥淖爾紫金有色金属有限公司	紫金銅業公司	鉛・亜鉛
蘭坪金頂鉛亜鉛銅	雲南蘭坪金鼎亜鉛有限公司	鉛・亜鉛
会澤鉛亜鉛銅	馳宏亜鉛股份有限公司	鉛・亜鉛
昭通鉛亜鉛銅	馳宏亜鉛股份有限公司	鉛・亜鉛
雲南華聯亜鉛インジウム股份有限公司	雲南華聯亜鉛インジウム股份有限公司	鉛・亜鉛
錫鉄山鉛亜鉛銅	西部銅業集团公司	鉛・亜鉛
成縣畢家山鉛亜鉛銅	甘肅省成州銅業集团公司	鉛・亜鉛
西成鉛亜鉛銅田	白銀有色金属有限責任公司	鉛・亜鉛
湖南宝山鉛亜鉛銅	湖南有色股份集团	鉛・亜鉛
黄沙坪鉛亜鉛銅	湖南有色股份集团	鉛・亜鉛
康家湾鉛亜鉛銅	水口山有色金属有限責任公司	鉛・亜鉛
佛子衝鉛亜鉛銅	佛子衝鉛亜鉛銅	鉛・亜鉛
連平県大尖山鉛亜鉛銅	連平県大尖山鉛亜鉛銅開發有限公司	鉛・亜鉛
凡口鉛亜鉛銅	深圳中金嶺南有色金属股份有限公司	鉛・亜鉛

表 4-2 中国の主な銅・鉛亜鉛製錬所

製錬所名	所有企業名	鉱種
金昌冶煉廠	銅陵有色金屬集團公司	銅
金隆銅業公司	銅陵有色金屬集團公司	銅
張家港 合銅業	銅陵有色金屬集團公司	銅
赤峰金劍銅業公司	銅陵有色金屬集團公司	銅
貴溪冶煉廠	江西銅業集團公司	銅
雲銅冶煉廠	雲南銅業股份有限公司	銅
金峰銅業	雲南銅業股份有限公司	銅
昆鵬銅業	雲南銅業股份有限公司	銅
清遠雲銅	雲南銅業股份有限公司	銅
金川冶煉廠	金川集團有限公司	銅
山東祥光冶煉廠	山東祥光銅業公司	銅
大冶冶煉廠	大冶有色金屬公司	銅
東宮方園冶煉廠	東宮方園有色金屬公司	銅
寧波金田	寧波金田銅業公司	銅
煙台鵬	煙台鵬 銅業有限公司	銅
金升有色	金升有色金屬公司	銅
山西中條山有色金屬公司	山西中條山有色金屬公司	銅
巴彥淖爾飛尚銅業公司	巴彥淖爾飛尚銅業公司	銅
白銀有色金屬公司	白銀有色金屬公司	銅
上海大昌銅業公司	上海大昌銅業公司	銅
上海鑫冶銅業公司	上海鑫冶銅業公司	銅
葫蘆島有色金屬集團公司	葫蘆島有色金屬集團公司	銅
広州珠江銅廠	広州珠江銅廠	銅
包頭華鼎銅業公司	包頭華鼎銅業公司	銅
富春江冶煉廠	富春江冶煉廠	銅
重慶冶煉廠	重慶冶煉廠	銅
大無縫建昌銅業公司	大無縫建昌銅業公司	銅
河南豫光金鉛集團有限公司	河南豫光金鉛集團有限責任公司	鉛・亜鉛
河南金利鉛業集團	河南金利鉛業集團	鉛・亜鉛
濟源市萬洋冶煉有限公司	濟源市萬洋冶煉有限公司	鉛・亜鉛
河南安陽市豫北金鉛有限責任公司	河南省安陽市豫北金鉛有限責任公司	鉛・亜鉛
株洲冶煉集團股份有限公司	株洲冶煉集團股份有限公司	鉛・亜鉛
第四、八冶煉廠	水口山有色金屬有限責任公司	鉛・亜鉛
郴州宇騰化工有限公司	郴州宇騰化工有限公司	鉛・亜鉛
郴州市金貴有色金屬有限公司	郴州市金貴有色金屬有限公司	鉛・亜鉛
巴彥淖爾紫金亜鉛冶煉廠	紫金鈹業公司	鉛・亜鉛
金峰中色庫博紅燁亜鉛業有限公司	中国有色金屬建設有限公司ほか	鉛・亜鉛
內蒙古興安銀鉛冶煉廠	內蒙古興安銀鉛冶煉廠	鉛・亜鉛
陝西東嶺冶煉總公司	陝西東嶺集團	鉛・亜鉛
商洛冶煉廠	陝西八一亜鉛業	鉛・亜鉛
白銀有色金屬公司	白銀有色金屬公司	鉛・亜鉛
中冶葫蘆島有色金屬集團有限公司	中国冶金科工集團	鉛・亜鉛
雲南馳宏亜鉛ゲルマニウム有限公司	雲南馳宏亜鉛ゲルマニウム有限公司	鉛・亜鉛
金鼎亜鉛業二冶煉廠	雲南蘭坪金鼎亜鉛有限公司	鉛・亜鉛
雲南祥雲飛龍實業公司	雲南祥雲飛龍實業公司	鉛・亜鉛
雲南羅平亜鉛電股份有限公司	雲南羅平亜鉛電股份有限公司	鉛・亜鉛
雲南縣南方有色冶煉有限責任公司	雲南縣南方有色冶煉有限責任公司	鉛・亜鉛
韶關冶煉廠	深圳中金嶺南有色金屬股份有限公司	鉛・亜鉛
安徽華鑫鉛業集團有限公司	安徽華鑫鉛業集團有限公司	鉛・亜鉛
徐州春興合金有限公司	徐州春興合金有限公司	鉛・亜鉛
江西金德鉛業股份有限公司	江西金德鉛業股份有限公司	鉛・亜鉛

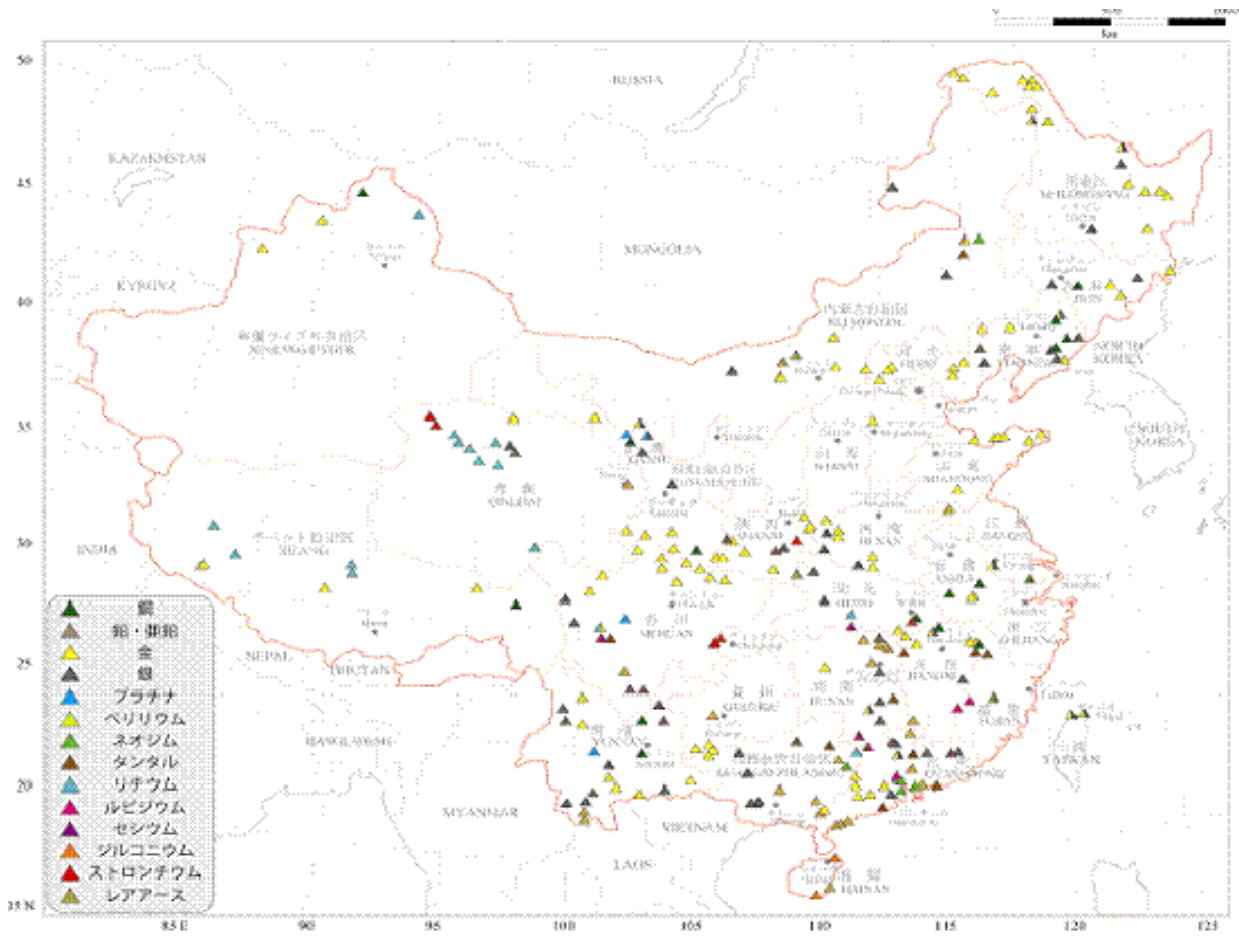


図1. 中国の主な鉱山位置図

5. 探鉱状況

国土資源部地質調査局が発表した国土資源大調査（1999年～2010年）成果は、次のとおり。新たに発見された鉱徴地は、特大型・大型計152カ所を含む900カ所余りで、資源埋蔵量は石炭1300億t（対2001年末比28%増）、鉄鉱石50億t（同11%増）、銅3,850万t（同16%増）、ボーキサイト4億4,900万t（同30%増）、金1,830t（同42%増）、塩化カリウム4億6,800万t（同23%増）のほか、松遼盆地周辺、西北銀額盆地、西南中上揚子盆地の3カ所で石油・ガスを発見した。調査費総額は、120億元である。

地域的には、遼寧大台溝、新疆阿吾拉勒、チベット尼雄などで大型鉄鉱床、チベット駆龍、雲南普朗、羊拉、新疆土屋—延東などで大型銅鉱床、山西交口—汾西、河南濟源—新安、広西西南、貴州北部などでボーキサイト鉱徴地を新たに発見した。チベット岡底斯、雲南西北部、新疆東天山地域で新規の国家レベル銅鉱資源基地が形成される見込みである。

6. 我が国との関係

ベースメタルでは、中国国内で現在稼働しているものは、金隆銅業有限公司のみである。日本側住友金属鉱山(株)、住友商事(株)が、中国側銅陵有色集团公司、金光国際有限公司と合併で現地法人金隆銅業有限公司を設立し、金隆銅製錬所で銅を生産している。金隆銅製錬所は1997年11月に稼働し、ス

タート時点の電解銅の生産能力10万tから2002年には15万tに上げたが、2004年4月18日、銅製錬設備の改善と製錬能力をこれまでの15万tから21万tにアップする工事に着手した。総投資額は4億2,900万元(5,180万\$)で、そのうち3,890万元を硫酸製造工程のシステム改善に当てている。また、2007年6月には35万tの銅電解設備が完成した。2008年の銅カソード生産量は302,000tであった。

住友商事は、江西タングステン公司及び安泰科学技術と共同で3,000t/年のタングステン粉末工場を2007年1月より操業を開始している。3社は共同出資により、登録資本金7,322万元の江西鑫友秦新材料有限公司を設立した。タングステン粉末工場への投資総額は13,288万元で、年間生産能力はタングステン粉末3,000t、炭化タングステン粉末1,000t及び合金粉末500tである。工場へのタングステン原料は江西タングステン会社が供給する。また、2007年には、タングステン関連では、タンガロイ社による五鉱集团公司傘下の南昌硬質合金会社の株21%買収した。

レアアース関連では、(株)三徳によるネオジウム磁石生産抗弁会社である包頭三徳電池材料有限公司(2001年設立)、昭和電工(株)によるネオジウム磁石生産合弁会社である贛州昭日稀土新材料有限公司(2002年設立)がある。また、中国五鉱集団と三徳株式会社が共同出資して五鉱三徳(贛州)稀土材料有限公司設立され、2011年2月、江西省贛州の開発区で工場建設に着手した。

7. その他トピックス (レアアース輸出問題)

2010年7月7日、中国商務部は、2回目の希土類輸出割り当て(輸出許可枠)を公表した。それによると2010年の輸出枠合計3万258トン、09年の5万145トンを大幅に下回り、中国に依存している先進国のレアアース産業へ大きな衝撃を与えた。さらに9月7日、尖閣諸島(中国名、釣魚島)沖漁船衝突事件が起こり、事態打開への方策が図られている時期に中国からの日本向けレアアース輸出の滞りが発生した。中国政府は関与を否定したが、欧米へのレアアース輸出にも支障が拡大した。日本を初めレアアース輸入国は当面の対応に苦慮し、欧米はWTO違反との見解を出して中国を非難することとなった。その後、10月末には中国の輸出手続き停滞は正常化され、輸出が再開された。以上のように中国のレアアース輸出枠の公表以来、レアアースが世界を翻弄、価格が急騰するとともに、供給不安が世界を覆った。閉鎖されていた米国のレアアース鉱山の再開が検討され、世界各地でレアアース探鉱が促進されるなど、レアアースを取り巻く世界情勢は一変した。中国は、輸出枠削減を環境保護や資源保護のためとしたが、内需優先、国内の高付加価値産業の育成だけでなく価格決定権の掌握をも目的とするものと考えられている。飛躍的な発展を続ける中国において、経済発展に必要な原材料の確保は最重要政策と位置付けられ、国内では小規模生産者を淘汰するための産業構造改革、業界再編成を通じて、レアアースだけでなくあらゆる国内資源の管理強化を実施し、海外では資源権益確保のための企業買収等を戦略的に世界中で展開している。

(2011. 7. 29 北京事務所 土居正典)